



コンテナ苗の植付検討会開催 5月16日

■ 「静内サクラ並木」や「日高優駿サクラロード」のサクラの開花が待たれる季節。5月16日 浦河地区西舎部内において署内・現場職員21名参加によるコンテナ苗の植付体験と検討会を行ったのでその概要を掲載します。

■ 植付作業の際 これまでの事例から、コンテナ苗導入の趣旨やコンテナ苗の根鉢の構造、植栽の簡便性、経済的有効性等について説明をし、前年度実施の地拵箇所に参加者全員でグイマツのコンテナ苗を植付けました。なお、工期等比較のため、隣接する箇所にグイマツ裸苗を植付けしました。

■ 植付場所
3060林班か小班 面積0.15ha
 苗木別面積 0.12ha マルチキャビティコンテナ(グイマツ250本、1セット24本約4kg)
 0.03ha 裸苗(グイマツ50本)

■ 使用器具
 コンテナ苗は従来のクワでの植付作業を行わず、苗木の根鉢を傷めず効率的な植付作業を行うため専用の器具を使用します。

ディブル
 根鉢と同系の円柱状の先端部を地面に踏みこみ植穴を作ります。

スピード
 スコップの要領で地面に踏みこみ、「てこ」の原理で持ち手を動かし植穴を作ります。

プランディングチューブ
 パイプ形状の先端部を地面に一度踏みこみ、地際部分にあるペダルを踏込むと地中の先端部が開閉し植穴を作ります。

■ 植付実施植付箇所への苗木の運搬は、「買い物かご」を使用し、職員が3種類の器具の実演を見た後全員で植付を行いました。(写真)今回の植付に当たっては、コンテナ苗植付等の工期調査も実施しています。

■ 検討結果及び課題

- ・簡単で早く植えることができる。(工程調査では、約43秒)
- ・植付が簡単で活着率の不安がすくない。
- ・鍬で植付けるより体に係る負担が少ないため腰痛等の予防になる。
- ・植付けの経験が少ない者でも、良好な活着が期待できる
- ・苗木1本当たりの重量がある。(根鉢の重量)
- ・苗木の運搬に手間が係る。(汎用または、専用のケース等が必要)
- ・苗木根鉢の損傷に十分注意する必要がある。(養分を含んだ土が重要)
- ・枝張りの大きいものはプランディングチューブのパイプ径に対応できない。
- ・林道から植付箇所までの、コンテナ苗の輸送方法の検討が必要。
- ・グイマツ以外の樹種で、どんな樹種が育苗されているのか。(トマツ、アカエゾマツ、カラマツ、広葉樹などがある。)
- ・苗木にかかる単価の差は今後拡大することで大量生産が可能となり、少なくなるのではないか。
- ・クワに比べ器具の安全性が高いため、子供たちが参加するイベント(植樹祭)用に利用できる。

などの意見、感想が出され、最後に、他の森林官からコンテナ苗を植えてみたいとの要望がありました。

■ まとめ
 北海道森林管理局では、低コストの造林技術(コンテナ苗)として、平成23年度は3署で、平成24年度は、8署において植付を実施しています。今年度は道内の全署(33,000本)で植付予定です。
 当署では、その内の250本を実施したわけですが、今後も植付等の検討を行い植付工期調査及び成績調査等の実証データを取りまとめ・分析し、日高流域の行政機関や森林所有者の方々に現地検討会でPR・説明し、低コスト造林技術の確立を目指す考えです。



荷台の上のコンテナ苗 (マルチキャビティコンテナ)



コンテナ苗の説明



用意された器具
プランディングチューブ



用意された器具
ディブルとスピード



買い物カゴによる苗木の



プランディングチューブによ



プランディングチューブに



スピードによる植付作業